

# 青梅上成木ふれあいの森

## 活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 VI

1. 実施日 平成27年9月24日

2. 観察ルート 里仁会館～都道202号～常盤林道～大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スミレの道～リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道口）～常盤林道～都道202号～里仁会館

### A. 里仁会館～常盤橋（都道202号沿い）

- ・シュウメイギク（秋明菊）キンポウゲ科イチリンソウ属で中国原産の多年草 菊の名があるがキク科ではなくイチリンソウやニリンソウの仲間。里仁会館前の成木川沿いで見られる。
- ・ノハラアザミ（野原薊）キク科アザミ属の多年草 花が真っ直ぐ上を向くアザミで、里仁会館近くの都道202号沿いから常盤林道沿いの所々で見られるが自生数は少ない。
- ・コムラサキ（小紫）クマツヅラ科ムラサキシキブ属の落葉低木 園芸用に栽培されたもので春に咲く花より秋の実が美しい。里仁会館近くで見られる。
- ・ヒガンバナ（彼岸花）ヒガンバナ科ヒガンバナ属で中国原産の多年草 別名マンジュシャゲ（曼珠沙華）でお馴染みの有毒植物。
- ・キバナコスモス（黄花秋桜）キク科コスモス属の多年草または1年草 コスモスの一種だが白やピンクの花の通常のコスモスとは異なる。園芸用として庭に植えられたものが庭逃げなどで自然繁殖している。
- ・ゲンノショウコ（現の証拠）フウロソウ科フウロソウ属の多年草 この辺りでは白色の花が多く見られるが、西日本には紅紫色の花が多い。夏から秋にかけて都道202号沿いから常盤林道沿いの所々で見られる。
- ・ヤクシソウ（薬師草）キク科オニタビラコ属の2年草 都道202号沿いで咲きはじめたが、年々自生数が減っているように思われる。



シュウメイギク



ノハラアザミ



コムラサキの実



ヒガンバナ



キバナコスモス



ゲンノショウコ



ヤクシソウ

- ・ヨウシュヤマゴボウ (洋種山牛蒡) ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属で北アメリカ原産の多年草で有毒植物。花が終わり不気味な黒紫色の実がとても目立つ。
- ・イヌタデ (犬蓼) タデ科タデ属の1年草 イヌタデは昔から赤まんまの愛称で親しまれている。都道 202 号沿いから常盤林道沿いの随所で見られる。
- ・キツネノマゴ (狐の孫) キツネノマゴ科キツネノマゴ属の1年草 一見シソ科に見えるがキツネノマゴ科という変わった植物。都道 202 号沿いから常盤林道沿いの所々で見られる。
- ・ツルニンジン (蔓人参) キキョウ科ツルニンジン属で蔓性の多年草 ジイソブの愛称で親しまれており、以前は常盤林道沿いでよく見られたが年々自生数が減っている。



ヨウシュヤマゴボウの実



イヌタデ



キツネノマゴ



ツルニンジン

- ・里仁会館近くの都道 202 号沿いにはオトギリソウ (オトギリソウ科)、コマツナギ (マメ科)、ツユクサ (ツユクサ科) など夏の花の咲き残りや、キク科のダントボロギク、ベニバナボロギク、タデ科のミズヒキ、ハナタデなど秋の草花も多く見られる。

## B. 常盤橋～大滝 (常盤林道沿い)

- ・ミゾソバ (溝蕎麦) タデ科タデ属の1年草 都道 202 号から常盤林道の成木川沿いなど水辺に近い場所に群生状態で生えている。花色が白いミゾソバも所々で見られる。
- ・ヤマウド (山独活) ウコギ科タラノキ属の多年草 野菜として栽培されているウドよりアクが強い。都道 202 号沿いから常盤林道沿いの所々で見られる。
- ・ヤマハッカ (山薄荷) シソ科ヤマハッカ属の多年草 青紫色の唇形の花が特徴的。常盤林道の所々で見られる。



ミゾソバ



ヤマウド



ヤマハッカ

- ・**タイアザミ (大薊)** キク科アザミ属の多年草 ナンブアザミ (南部薊) の変種と言われ、ナンブアザミより葉の切れ込みが深く、花は横向き、あるいは下向きに咲く。別名トネアザミ (利根薊)。
- ・**アキノキリンソウ (秋の麒麟草)** キク科アキノキリンソウ属の多年草 以前は常盤林道沿いでよく見られたが最近はあまり見られなくなった。
- ・**アカネ (茜)** アカネ科アカネ属で蔓性の多年草 根が染料になる植物。都道 202 号沿いから常盤林道沿いの所々で見られる。



タイアザミ



アキノキリンソウ



アカネ

- ・**ボタンヅル (牡丹蔓)** キンポウゲ科センニンソウ属で蔓性の落葉半低木 夏には他の樹木に絡み付き、遠目に綿を被せたような白い花を咲かせていたが、もう花はほとんど終わりで特徴的な実を付けている。
- ・**キツリフネ (黄釣舟)**、**ツリフネソウ (釣舟草)** ツリフネソウ科ツリフネソウ属の1年草 細い柄の先にぶら下がって咲く花が特徴的。常盤林道沿いのツリフネソウは年々自生数が減っている。
- ・**セキヤノアキチョウジ (関屋の秋丁子)** シソ科ヤマハッカ属の多年草 毎年、常盤林道沿いで多く見られたこの花も年々自生数が減っているように思われる。



ボタンヅルの実



キツリフネ



ツリフネソウ



セキヤノアキチョウジ

- ・前回 8 月の観察ではボツボツ咲きはじめていた常盤林道沿いのシュウカイドウ (シュウカイドウ科) は秋になり、ベゴニアに似たピンクの花が常盤林道沿いの所々を彩っている。
- ・常盤林道沿いの湿った場所では夏に咲くミゾホウズキ (ゴマノハグサ科) の咲き残りがまだ所々で見られる。

### C. 大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スミレの道

- ・**イワタバコ (岩煙草)** イワタバコ科イワタバコ属の多年草 大滝近く、右手山側岩肌のモニタリングポイント①を含め大滝周辺、イラクサの道の途中のモニタリングポイント②、そしてサエズリの道の途中、支沢の出合い近くのモニタリングポイント③のイワタバコはすべて花が終わり花後の実を付けている。
- ・大滝近く、右手山側岩肌のモニタリングポイント①のイワタバコの少し先、モニタリングポイント①のツルリンドウ (リンドウ科) は蔓を伸ばしており、いくつかは既に開花し、まだ蕾状態も見られる。

- ・サエズリの谷、ツリーハウス近くのトチバニンジン（ウコギ科）は開花した1株が、秋に赤い実のなるのが期待されていたが、今回残念ながら枯れ落ちてしまっているのを確認。
- ・スマレの道（日陰）で1株のシソ科の花が咲いており、イヌコウジュあるいはヒメジソと思われるが、とてもよく似ているので名前の同定は難しい。
- ・ヤマジノホトトギス（山路の杜鵑草）ユリ科ホトトギス属の多年草　スマレの道（日陰）で一株だけ咲いているのを見つける。
- ・センブリ（千振）リンドウ科センブリ属の2年草　前回移植により枯れてしまった1株を除いて、残った10株は順調に成育しており、5株ほどが蕾を付けているので来月には開花が期待される。



花後のイワタバコ



名前不詳のシソ科の花



ヤマジノホトトギス



センブリの蕾

#### D. リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道入口）

- ・ツルリンドウ（蔓竜胆）リンドウ科ツルリンドウ属の蔓性の多年草　リンドウ坂の東京都環境保全看板近くのモニタリングポイント②のツルリンドウは蔓を伸ばした生育状態が良い7株ほどに花や蕾が見られ、既に花が終わり赤い実を付けている株も見られる。
- ・イチヤクソウ（一葉草）イチヤクソウ科イチヤクソウ属の多年草　東京都環境保全看板から少し下がったリンドウ坂の左手斜面で、今年開花した1株だけ象の鼻のような長い雌しべが突き出た実は段々黒く変色している。
- ・前回8月の観察でアジサイの道に向かう途中のリンドウ坂で自生を確認したモニタリングポイント③のツルリンドウも生育は良好で蔓を大きく伸ばし、まだ実は付けていないがいくつかの花と蕾が見られた。
- ・マツカゼソウ（松風草）ミカン科マツカゼソウ属の多年草　アジサイの道のマツカゼソウの花はそろそろ終わりだが、まだ咲き残りが多く見られる。
- ・カントウマムシグサ（関東蝮草）サトイモ科テンナンショウ属の多年草　アジサイの道でカントウマムシグサの実を見つける。まだ青い未熟な状態だが、これから段々真っ赤に熟していく。



ツルリンドウの実



イチヤクソウの実



マツカゼソウの実



カントウマムシグサの未熟実

## E. 瀬沢出合い（大滝作業道入口）～大滝（常盤林道沿い）

- ・ミツバベンケイソウ（三葉弁慶草）ベンケイソウ科キリンソウ属の多年草 瀬沢、大滝間の成木川沿いの大きな岩の上に自生しているミツバベンケイソウは花が開きはじめた。
- ・チヂミザサ（縮み笹）イネ科チヂミザサ属の多年草 葉が笹のようで縁が縮れているのでこの名がある。ササクサやススキなどイネ科の植物が常盤林道沿いの随所で見られる。
- ・イタドリ（虎杖）タデ科タデ属の雌雄別株の多年草 デ科タデ属で雌雄異株の多年草 虎杖は中国名で春先の若茎はスカンポの名で山菜としてもお馴染み。活動エリアの随所で見られ、花はそろそろ終わりで特徴的な実をたくさん付けている。
- ・メナモミ（雌なもみ）キク科メナモミ属の1年草 オナモミに対し女性的に見えることからこの名がある。瀬沢出合い～大滝間の常盤林道沿いの所々で見られる。



ミツバベンケイソウ



チヂミザサ



イタドリの実



メナモミ

- ・レモンエゴマ（檸檬荳胡麻）シソ科シソ属の1年草 葉を揉むとレモンのような香りがするのでこの名がある。瀬沢出合い～大滝間の常盤林道沿いの駐車スペース近くで自生を確認。
- ・キバナアキギリ（黄花秋桐）シソ科アキギリ属の多年草 大きく口を開けているような花が特徴的。常盤林道沿いの所々で見られる。
- ・ズメウリ（雀瓜）ウリ科ズメウリ属で蔓性の1年草 実がカラスウリより小さいのを雀にたとえて、あるいは小さい実を雀の卵に見立ててこの名があり、夏に白い小さな花が咲く。常盤林道沿いで丸い実をいくつかぶら下げたズメウリの自生を確認



レモンエゴマ



キバナアキギリ



ズメウリの実

- ・瀬沢出合いから大滝間の常盤林道の駐車スペース近く、山側岩肌のモニタリングポイント④のイワタバコの花はすべて終わり花後の実を付けている。岩肌にはシダ類など雑草が繁茂し、乾燥して荒れた様相で、イワタバコの葉がほとんど目立たない状態と化している。
- ・瀬沢出合いから大滝間の常盤林道沿いには咲き残りのマツカゼソウがまだたくさん見られる。
- ・瀬沢出合いから大滝間の常盤林道沿いにはミズヒキ、イヌタデ、ハナタデなどタデ科の植物が随所で咲いており、所々でまだキク科のガンクビソウの咲き残りも見られる。

### 3. 総括

- モニタリングを実施した4ヶ所のイワタバコはすべて花が終わり、花後の実を付けはじめていますが、夏以降、どこでもシダ類や他の雑草の繁茂が著しくイワタバコの葉がほとんど目立たない状態と化し、また乾燥化で岩肌がもろくなり、落ちた種子が来年以降発芽しても順調に生育できるかどうか懸念される。
- モニタリングを実施した3ヶ所のツルリンドウはそれぞれ順調に生育し、蔓を伸ばした株にはいくつかの開花と結実が見られたものの、リンドウ坂の東京都環境保全看板近くに28株ほど自生するモニタリングポイント②のツルリンドウのうち、蔓を伸ばした生育が良好な1/4の7株ほどが花や蕾を付け、そのうちのいくつかに赤い実を付けているのが見られたが、残りの3/4は小さな株のままで、ほとんど蔓も延びず開花も認められなかった。  
日照、土壌、乾燥状態など環境不適が原因なのか、来年以降継続して要観察。
- モニタリングを実施したスマレの道（日向）のセンブリは半分の5株に蕾が付いているのがはっきり判り、間もなく開花すると思われるが、残りの小さめの株にも花芽が認められ来月以降には開花が期待されるので引き続き要観察。
- 毎年、都道202号、常盤林道沿いで見られるヤマホトトギスが今回の観察では見ることはできなかったが、今回スマレの道（日向）に自生しているのを確認。
- 今まで活動エリア内ではヤマホトトギスしか見られなかったが、今回スマレの道（日陰）ではじめてヤマジノホトトギスの自生を確認。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部